

## 第5回 校長会議あいさつ

R2.7.31 稲垣

例年になく長梅雨は各地で災害を引き起こしました。本市でも大きな災害は回避できたものの、日照時間の不足や大量の雨水による農作物や海産物への影響が心配されます。一方、学校では、来月8日の柔道を残してはいるものの、梅雨の合間を縫って、部活動の夏季大会が無事に開催できたことは幸いでした。

本日は3点についてお話します。

1点目は、子どもたちの「感謝の心を広げたい」ということです。私たちはコロナ禍という状況下で、さまざまな人間模様や社会情勢を目にしました。情報量の差こそあれ、子どもたちも同様です。そこで実感されたことを子どもたちの中に価値観として定着させたいと思います。

例えば、今まで当たり前だと思っていた日常生活の大切さは誰しも感じたことと思います。また、私財を寄付された方は言うまでもなく、ボランティアや医療関係者をはじめ、多くの心ある方たちが我が身を惜しまず働いて今を支え、未来を拓こうとされています。その中には、目に見える活動もあれば、見えにくいところで心を砕いて奮闘してみえる方もいる。この機にそういうことに気づく感性を子どもたちに養わせたい。身近な例で言うなら、8月の給食提供にかかわっては、夏場でも安全な献立を考案した栄養教諭や、普段でさえ高温になる調理室で頑張ってくださっている調理員の方たちもいる。そういう表に出てこない人たちの支えを想像できる子どもたちに育てたい。件の道徳教材もそうですが、私たち教師は、子どもを成長させるために、したたかに「禍転じて教材と成す」という姿勢でありたいと思うのです。そしてそのためには、私たち教師もまた他者の苦しみを精一杯慮る心をもてるよう努めなくてはなりません。

2点目は、学校における感染拡大防止について。「新たな日常」には慣れてきたと思いますが、感染の第二波は容赦なく押し寄せつつあります。今後、学校においても感染者が出てしまうことは避けがたいかもしれません。その状況をシミュレーションして、風評被害を食い止めながら、円滑な感染拡大の防止策を講じていくための準備をしておく必要があります。その際、一刻も早い感染状況の把握が重要です。そのためには保護者からの情報提供が唯一の頼みの綱となります。この点について保護者への理解と協力をしっかりとお願いしておきたいと思います。

3点目は、安井克彦先生が中心となって三河の先輩諸兄が上梓された『三河のペスタロッチたち』についてです。現代とは時代背景、社会風潮に違いこそあれ、そこに登場する人間力と教師力の横溢する先達の生き方に接すると、私たち自身の未熟さに思い当たるとともに、教育者として心が熱くなります。教育改革や働き方改革の奔流に晒されても、教育の本質を見失わないための根本、三河教育の神髄にふれることができる、メッセージの花束だと思います。役職者はもちろん若手に至るまで、広く読まれることを願います。